

I - B - 4

CCl₄肝障害に対する利尿剤（五苓散）の作用

近畿大学東洋医学研究所・第I研究部門

○織田真智子, 中西由香, 唐 方, 阿部博子

〔目的〕

CCl₄肝障害に対する利尿剤の代表的な処方の一つである五苓散の作用を, 五苓散の短期投与, 長期投与とに分けて検討した.

〔実験方法〕

Wistar系♂ラット8w齢を5群に分け, 1群を五苓散0.5g/kg, 2群は1.0g/kg, 3群は2.0g/kg, 各々1日1回7日間, 強制経口投与した. 4・5群は対照群とし, 水道水を投与した. 7日目の投与3時間後, 1~4群にCCl₄ガスを20分間吸入させ, 5群は正常対照群とした. 24時間後に血清GOT, GPTを測定した. 同様に五苓散1.0g/kgを2.5ヶ月間投与した群で, CCl₄ガス吸入後24時間目の血清GOT, GPT値の測定を行った. また, 五苓散のみ投与したラット肝臓のNADPH-cyt. C reductase 活性を測定した.

〔結果〕

五苓散0.5g, 7日間投与群の血清GOT 値は対照群より約10% 抑制され, 1.0g, 2.0g投与群では各々約27%, 約38% 抑制された.

五苓散長期投与群では, 対照に比べGOT 値は130%と増悪傾向を示した. この五苓散の作用メカニズムを知る目的で, 五苓散投与ラットの肝ホモジネート及びミクロゾームでのNADPH-cyt. C reductase 活性を測定したが, 7日間投与では対照群との間に差は見られなかったものの2.5ヶ月投与群では, 有意に活性の上昇が認められた.